

31. 軟部好酸球肉芽腫の肉芽内好酸球の特徴

越谷病院 耳鼻咽喉科

廣瀬 壯, 中島規幸, 村上敦史, 井上庸夫,
三輪正人, 堤 剛, 渡辺建介

【目的】軟部好酸球肉芽腫においてステロイド投与前後で組織採取を行い, 好酸球の特徴を電子顕微鏡で調べた.

【方法】耳下部の腫瘍に針生検を行い, 採取材料を電顕観察した. ステロイド投与後, 再び同部位を針生検し, 同様に電子顕微鏡で観察した.

【結果】ステロイド投与前では肉芽中の好酸球は90%以上細胞膜が破綻しており, 顆粒は細胞外に散らばって存在していた. 顆粒そのものの空胞化はほとんどなかった. Charcot Leyden crystal が組織間隙に多数認められた. ステロイド治療後は90%以上の好酸球で崩壊が認められず, 顆粒の細胞外放出もほとんど認められなかった. Charcot Leyden crystal は観察されなかった.

【考察】軟部好酸球肉芽腫の増悪因子として肉芽内での好酸球の崩壊が示唆された.

32. 当科における耳下腺手術症例の検討

耳鼻咽喉科学

今野 渉, 金谷洋明, 平林秀樹, 春名眞一

【目的】2002年6月から5年間の期間に当科で行った耳下腺手術症例118例についてその組織型・術式・合併症について検討した.

【対象・方法】当期間に耳下腺手術を受けた男性68名(平均53.8歳), 女性50名(平均56.0歳)をカルテ・手術記録を元に後ろ向きに検討した.

【結果】病理組織は, 悪性腫瘍16例(13.6%) 良性腫瘍と良性病変(86.4%)で, 悪性腫瘍では多形腺腫由来癌5例と最も多く, 良性腫瘍では多形腺腫とワルチン腫瘍が多かった. 施行した術式は浅葉切除が87例と最も多く, 周術期合併症は一過性顔面神経麻痺14.4%, Frey 症候群5.1%で認められた. また, 一過性顔面神経(+)群(n=17)と合併症なし群(n=81)を比較したところ, 術式と手術時間において有意差が認められ, 出血量・年齢は有意差が認められなかった.

【結論】周術期合併症は過去の他の報告と比較して大差は認められなかった. また一過性顔面神経麻痺の発生には深葉切除術と長時間手術がリスク要因として考えられた.